

(一社)日本原子力産業協会
 人材育成部

原子力産業セミナー2017 報告

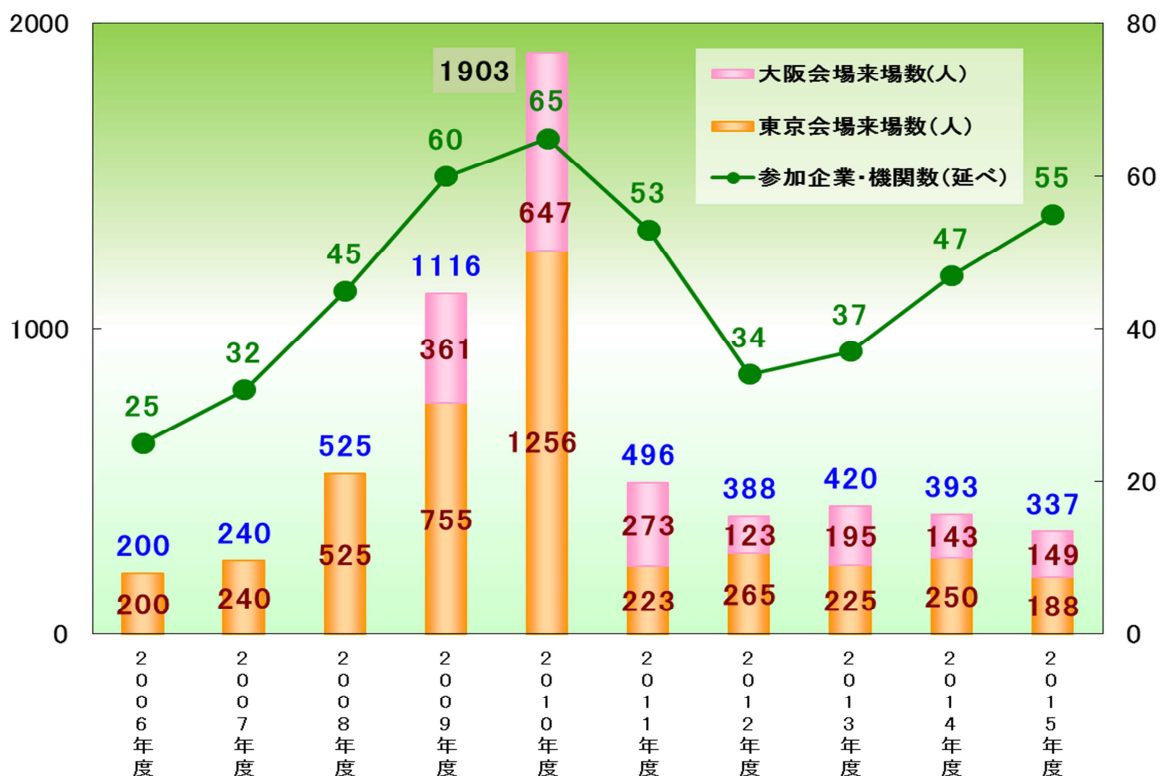
日本原子力産業協会および関西原子力懇談会は、2017年卒の大学生(3年生)・大学院生(修士1年生)及び高専生を主対象に、10回目となる合同企業説明会「原子力産業セミナー2017」を開催した。本セミナーは、原子力産業に関わる企業・機関の採用活動と学生の原子力産業への就職の支援、および原子力産業への理解促進・情報提供を目的としている。

1. 概要

()内の数字は昨年度のもの

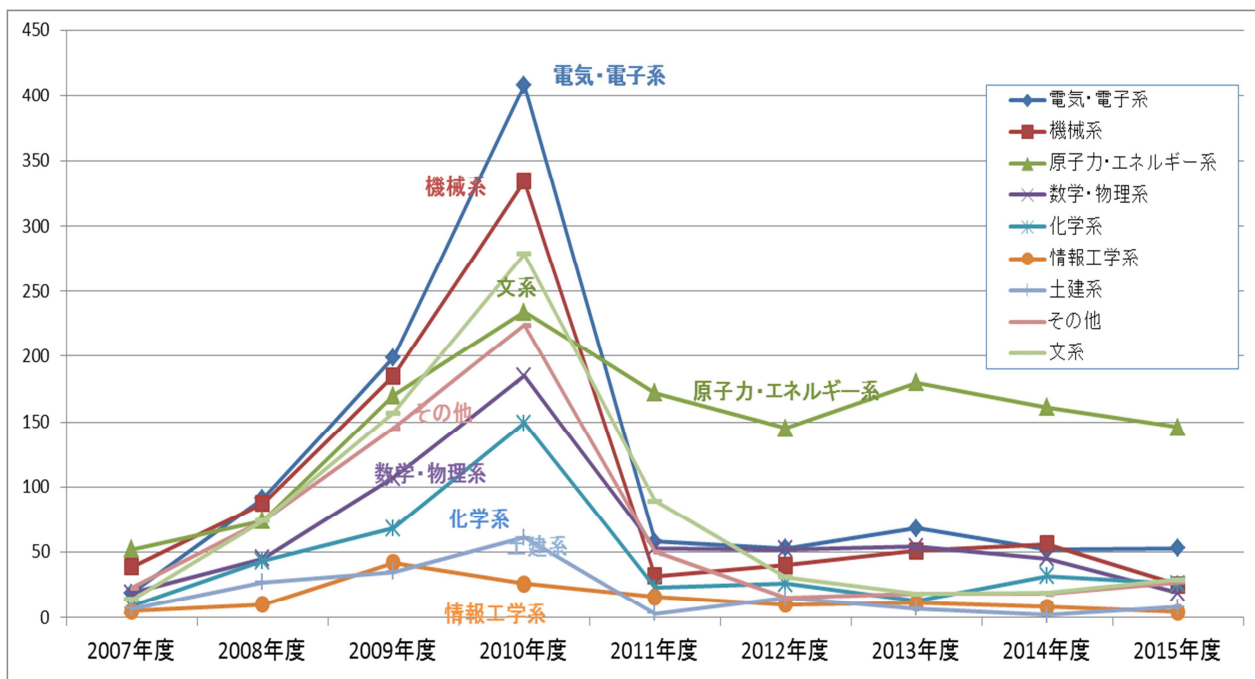
	東京会場	大阪会場	
開催日	2016年3月13日(日)	2016年3月20日(日)	
開催場所	新宿エルタワー サンスカイルーム	新梅田研修センター 新館・本館Lホール	合計
来場学生数	188人(250人)	149人(143人)	337人(393人)
参加企業・ 機関数	31社(26社)	24社(21社)	55社(47社)

原子力産業セミナーの来場数および参加企業・機関数の推移



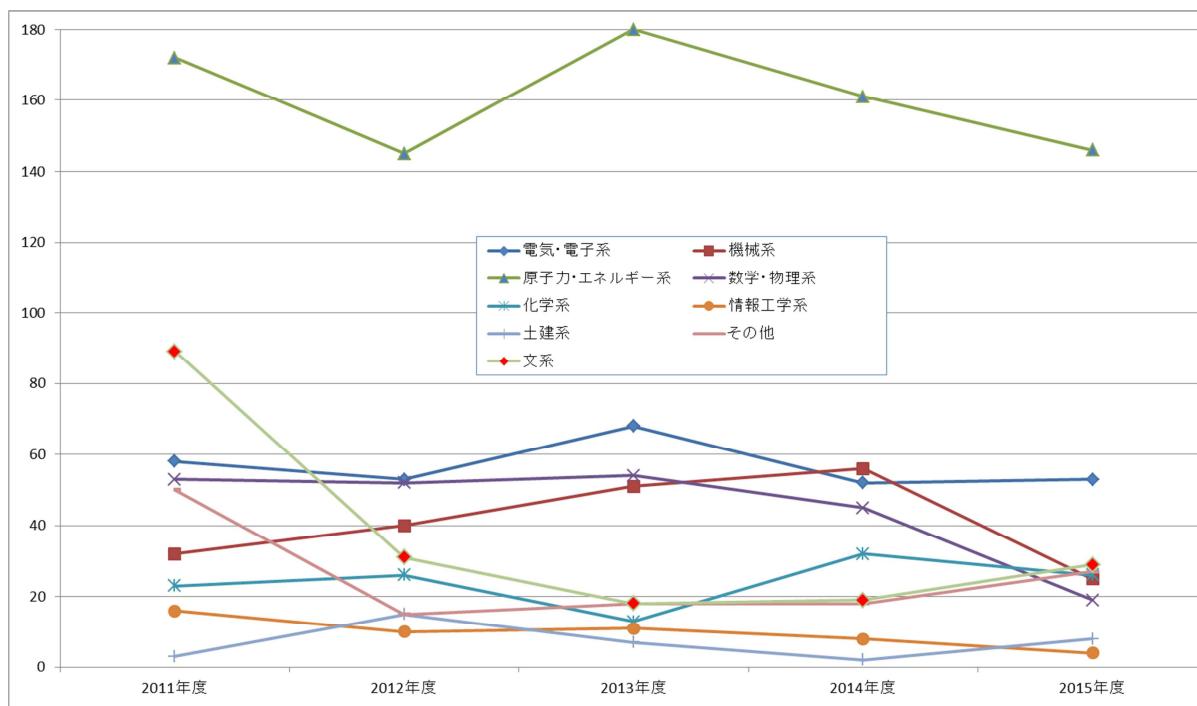
(大阪では2009年度より原子力産業セミナーを開催)

来場学生の学科別人数の経年変化 (東京会場 + 大阪会場)



来場学生は、一昨年度の 393 名（東京 250、大阪 143）から、昨年度は 337 名（東京 188、大阪 149）へ減少した。来場学生の学科別では、多い順に 原子力工学系 電気・電子系 文系 化学系 機械系 - となっている。原子力・エネルギー系の学生の来場者数は微減、機械系も減少した。一方、文系学生は昨年に比べて増加した。

(参考) 第 6 回 ~ 第 10 回の来場学生の専攻の推移 (東京 + 大阪)



参加企業・機関一覧

参加企業は延べ 55 社（東京 31、大阪 24）、一昨年度の 47 社から大幅に伸び、2010 年度以来の数となった。これは企業の強い人材採用ニーズを反映したものと考えられる。

電力関連企業(五十音順)		東京会場	大阪会場
1	関西電力株式会社		
2	中部電力株式会社		
3	中国電力株式会社		
4	J-POWER 電源開発株式会社		
5	東京電力株式会社		
6	日本原子力発電株式会社		
7	日本原燃株式会社		
8	北陸電力株式会社		
重電メーカー(五十音順)		東京会場	大阪会場
9	株式会社 I H I		
10	株式会社 東芝		
11	株式会社 日立製作所(日立GEニュークリア・エナジー株式会社)		
12	三菱重工株式会社		
プラント・エンジニアリング企業等(五十音順)		東京会場	大阪会場
13	株式会社 アトックス		
14	MHIニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング株式会社		
15	関電プラント株式会社		
16	株式会社 クリハラント		
17	原子燃料工業株式会社		
18	原燃輸送株式会社		
19	株式会社 コーガアイソトープ*		
20	新日本空調株式会社		
21	株式会社 千代田テクノ		
22	中電プラント株式会社 *		
23	株式会社 テブコシステムズ		
24	東芝プラントシステム株式会社		
25	株式会社 東京エネシス		
26	東京パワーテクノロジー株式会社		
27	東電設計株式会社		
28	株式会社 日本環境調査研究所		
29	日本原子力防護システム株式会社 *		
30	日本メジフィジックス株式会社		
31	株式会社 B W R 運転訓練センター		
32	H i t z 日立造船株式会社		
33	株式会社 日立プラントコンストラクション		
公益・独立行政・研究法人(五十音順)		東京会場	大阪会場
34	原子力規制委員会原子力規制庁		
35	原子力発電環境整備機構		
36	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構		

* は初出展の企業

2. 今回の評価と今後の方向性

① 評価

原産セミナーへの参加企業・機関数は引き続き増加して 55 社となり、事故後の 2011 年度以来、最高の出展者数となった。企業における特に理系の採用ニーズは高まっていると考えられる。

一方、来場学生数は一昨年度の 393 名（東京 250、大阪 143）から、337 名（東京 188、大阪 149）へ 56 名減少した。東京会場は 250 名から 188 名へ 62 名減少したが、大阪会場は 143 名から 149 名へ 6 名増加した。

参加大学・高専数は昨年より 7 校多い 99 校となった。東京会場には 65 校が参加（昨年 + 5 校）、大阪会場には 34 校が参加（昨年 + 2 校）した。

参加者数は、大震災後の 2011 年度以来、減少傾向が続いている。特にここ 3 年間ほどは、就職状況の大幅な改善に加え、インターンシップの普及、学校推薦制度の普及と人数増など、就職方法の多様化が原因とも考えられる。

東京会場・大阪会場とも、企業・機関からの採用ニーズの高い「機械、電気、化学系」学生の来場者数は依然として少ない状況（電気と化学はほぼ横ばい、機械は減）。一方、文系学生の来場者数は増加した。

今後の方向性

原子力産業界が持続的に良質かつ必要な数の人材を確保していくためには、原子力産業セミナーだけでなく、新たに以下のような多面的な人材確保策を打っていく必要がある。

- ・ 会員企業のインターンシップを支援する取り組み（インターンシップ・セミナー等）
- ・ 大学において、原子力産業の認知度を上げ、魅力を知ってもらうための取り組み（学内セミナー、講演会、サイエンスカフェ等）
- ・ 原子力工学科・専攻科のある大学では、原子力教官と協力して、他の理系学科・専攻科に原子力産業を紹介する取り組み
- ・ 東京・大阪以外の地域における人材ニーズに応える取り組み（地域セミナー等）
- ・ 新卒のみならず、第二新卒・既卒者へも採用の機会を広げる取り組み

これらの方策を通じて、原子力産業セミナーへの来場者も増やせるのではないかと考えられる。また、セミナー会場まで学生に足を運んでもらうためには、原子力産業界が若者に将来の展望、やりがい、魅力などを効果的に発信していくことが重要と考えられる。

3. 原産セミナーの実施内容

学生へのプロモーション

早い段階で原子力産業を認知してもらうとともに、働く場としての魅力やあらゆる分野の若者が活躍できるフィールドが広がっていることなどを伝えるために、大手就職情報会社である（株）マイナビと連携し、プロモーションを展開した。

若手技術者・研究者インタビューのWEB動画（マイナビTV）（*1）の配信、原子力産業の理解活動を行った。3月以降は、就職情報サイトの「マイナビ2017」に原子力産業の研究コンテンツ「原子力産業特集」（*2）の掲載、マイナビより理系学生向け来場促進のダイレクトメール（葉書）送付や就職情報誌へのチラシの同封、大学就職課へのポスター（*3）送付、当協会と関西原子力懇談会からは、関係のある大学教官や関係者に対し、学生への告知依頼などの活動を行った。



(*1) マイナビTV で若手技術者が経験を語る



(*2) マイナビサイトに「原子力産業特集」を掲載



(*3) 原子力産業セミナー2017 のポスター

原子力産業セミナー当日（東京、大阪）
 原子力産業セミナーの当日は、各企業・機関による採用活動ブースの出展、展示コーナー（ポスター展示、資料配布など）、コミュニケーション・エリア（参加企業と学生の個別対話の場）を設置した。



採用活動ブースエリア(東京)



採用活動ブースエリア(大阪)



展示コーナー



コミュニケーション・エリアで学生と対話

4 . 後援・協賛

以下の通り、11 団体・機関からの後援・協賛を頂いた。

後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省、原子力人材育成ネットワーク

協賛：国立高等専門学校機構、電気学会、日本化学会、日本機械学会、日本原子力学会、日本保健物理学会、核物質管理学会・日本支部